

図書館通信

最上校図書委員会 No.13 10月1日



第2回 朝読書が始まります

期間 10月2日(水)~10月18日(金)

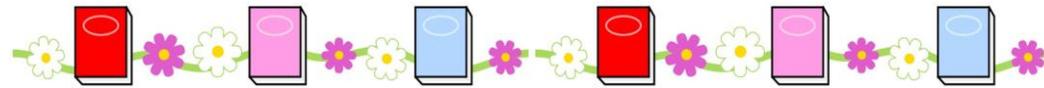
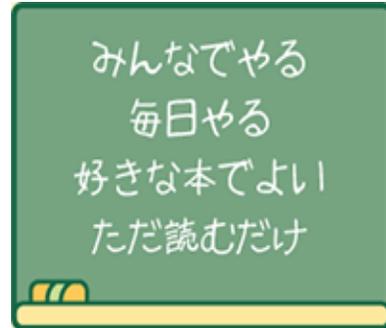
時間 8時20分~8時30分(10分間)

朝読書の4原則

※朝読書記録カードに、記入しましょう。

※雑誌やマンガ以外、読みましょう。

※本は前もって準備しておきましょう。



高校生のための
探究学習
ワーク

『高校生のための探究学習ワーク』 広瀬志保監修

「なぜ」「どうして」からスタートして、興味関心の幅を広げたり、深めたりしながら、誰でもワクワクしながら探究が進められる工夫が満載。生徒が実際に授業や学習の実践で使用できるワークブックとして、単に書き込みできるだけでなく、項目ごとに解説と説明を入れ、それを読みながら生徒自身が自主的に取り組めるようになっています。

『池上彰の未来予測 After2040』 池上彰著

あなたは16年後の自分を想像できますか？過去の出来事から未来を予測し今から準備をする必要があります。とはいえ未来を考えると暗い将来ばかりを思い描いてしまいがちです。不安というものは、いったん考え始めると次から次へと出てきて、思考が不安に支配されてしまいます。私はそうならないために、未来をなるべく楽観的に考えることを心掛けています。ですので、本書では明るい未来と暗い未来の両方を想像しています。あなたの未来が暗くならないために、今からどう行動していけばいいのか？本書をそのきっかけにしてもらいたいと思います。

池上彰の未来予測

After 池上彰

すべて未来のあなたに関係することです

2040

朝読書にオススメの最新刊！



『黄昏のために』 北方謙三著

画家である「私」は、今日も独り、絵を描いている。モチーフは人形、薔薇、動物の頭骨、階段。裸婦は描くが、風景画は描かない。物は物らしく、あるべき姿を写し取る。ふた月に一度アトリエを訪れる画商・吉野に絵を売り、腹が減ったら肉を焼いて食べる。秋には山で枯れ葉を集め、色を採集する。対象を見、手指を動かす。自分がほんとうに描きたいものを見出すまで。

『籠の中のふたり』 薬丸岳著

母が結婚する前に父親の安彦に送った手紙を見つけ、自身の出生に関わる衝撃の秘密を知る。二人は全ての過去と罪を受け入れ、本当の友達になれるのかもっともハートフルな物語が誕生。最後に芽生える真の友情に、あたたかい涙が止まらない！

『穢れた聖地巡礼について』 背筋著

過去に動画で取り上げた心霊スポットの追加取材を行い、ネットなどで集めた情報をもとに、読者が喜びそうな考察をでっちあげていく。

『雷と走る』 千早茜著

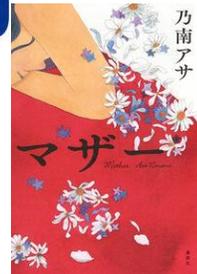
幼い頃海外で暮らしていたまどかは、番犬用の仔犬とン・リッジバックの「虎」と出会った。唯一無二の相棒だったが、一家は帰国にあたり、犬を連れて行かない決断をして

『イツ・ダ・ボム』 井上先斗著

「日本のバンクシー」と耳目を集めるグラフィティライター界の新鋭ブラックロータス。公共物を破壊しないスマートな手法で鮮やかにメッセージを伝えるこの人物の正体、そして真の思惑と上がらぬウェブライターは衝撃の事実と辿り着く。

『マザー』 乃南アサ著

5つの短編に待ち受ける、予想外の驚愕の結末！あなたはもう、以前の家族には戻れない。衝撃の令和の家族像。「母という禍、家庭という地獄。ひょっとして獄吏は自分自身なのかもしれない」



※ぜひ、図書館へ

朝読書にオススメの新刊!



『ここはすべての夜明けまえ』 間宮改衣著

何もかも手遅れで、何もかも破綻していて、だからこそ優しく。約100年前、身体が永遠に老化しなくなる手術を受けるときに提案されたことだった。

『spring』 恩田陸著

稀代のストーリーテラーが辿り着いた最高到達点=バレイ小説。

『家族解散まで千キロメートル』 浅倉秋成著

家族の嘘が暴かれる時、本当の人生が始まる。どんでん返し家族ミステリ。

『二人目の私が夜歩く』 辻堂ゆめ著

この物語には、二人の私と、二つの真実がある。昼と夜で、一つの身体を共有する茜と咲子。しかし昼が終わりを告げたとき、予想しなかった夜の真相が明かされる。

『それは令和のことでした、』 歌野昌午著

一行を読み逃せば、謎の迷宮から出られない。新しい価値観のゆらぎが生み出す7つの悲劇。

『告白撃』 住野よる著

親友に告白されたい。そして失恋させたい。大人げない告白大作戦の開幕! ものわकारいのいい私たちが揺さぶる、こじれまくった恋と友情。

『死んだ山田と教室』 金子玲介著

夏休みが終わる直前、山田が死んだ。山田は勉強が出来て、面白く、誰にでも優しい、二年E組の人気者だった。二学期初日、教室のスピーカーから山田の声が聞こえてきた。教室は騒然となった。山田の魂はどうやらスピーカーに憑依してしまったらしい。〈俺、二年E組が大好きなんで〉。声だけになった山田と、二Eの仲間たちの不思議な日々がはじまった。死んでも終わらない山田の青春に、ぼくらは笑い、驚き、泣く。

『カフネ』 阿部暁子著

一緒に生きよう。あなたがいると、きっとおいしい。やさしくも、せつない。この物語は、心にそっと寄り添ってくれる。

『クスノキの女神』 東野圭吾著

不思議な力を持つクスノキと、その番人の元を訪れる人々が織りなす物語。

『われは熊楠』 岩井圭也著

世に認められぬ苦悩と困窮、家族との軋轢、学者としての栄光と最愛の息子との別離。野放図な好奇心で森羅万象を収集、記録することに生涯を賭した、知の巨人の型破りな生き様が鮮やかに甦る!

『転の声』 尾崎世界観著

俺を転売して下さい。喉の不調に悩む以内右手はカリスマ転売ヤーに魂を売った!?

ミュージシャンの心裏を赤裸々に描き出す。

『いなくなくなからないうで』 向坂くじら著

高校時代に死んだはずの親友・朝日。時子はずっと会いたかった彼女からの電話に驚喜するが、「住所ない」と話す朝日が家に住み着き。

『バリ山行』 松永K三蔵著

波多は同僚に誘われるまま六甲山登山に参加する。その後、社内登山グループは正式な登山部とり、波多も親睦を図る、気楽な活動をしていたが、ベテラン社員妻鹿に、危険で難易度の高い登山、バリ山行に連れて行ってもらうと。

『サンショウウオの四十九日』 朝比奈秋著

周りからは一人に見える。でも私のすぐ隣にいるのは別のわたし。不思議なことはなにもない。けれど姉妹は考える、隣のあなたは誰なのか? そして今これを考えているのは誰なのか?

『海岸通り』 坂崎かおる著

海辺の老人ホームに集う女たちのゆるやかなつながり。様々な人物が、正しさ間違い、本物と二セモノの境をこえて踊る、静かな物語。

